

分科会の記録 <特別Ⅱ分科会 特別課題>

【講師】佐賀県 武雄市教育委員会新たな学校づくり推進室教育監 徳永 貞康 氏

【提言主題】ICTを活用した業務改善に向けての副校長・教頭の役割と指導性

【協議の柱1】学校で一人一台の学習者用端末は、どのように活用されているか。

【グループ協議 報告】

- ・端末機を文房具感覚で使い、クラスルーム、ドリルノート、Google ミート等、学年に応じて使用している。
- ・教職員の意識や技術の差が大きく、端末の使用自体が目的となっていることもあり、研修等が必要である。
- ・低学年では、生活科の観察活動での写真撮影、中学年以上では、調べ学習やタブレットワークシートへの記入、思考場面でのお互いの考えの共有など、発達段階に応じて様々な場面で活用している。
- ・ロイロノートを使って思考の繋がりを可視化し、クラスルームを活用して共有化している。
- ・端末機を持ち帰らせ、ドリル学習など家庭学習で活用している。夏休みにも持ち帰らせ、学校からの課題や連絡事項を随時配信しているところもある。しかし、家庭への持ち帰りに関しては、まだまだ課題が多い。
- ・スクールライフノートを使い、児童の「心の天気」を可視化している。児童は、気持ちを晴れ・曇り・雨などで記録し、担任や管理職はそれをもとに児童の現在の様子や心の変容を見取り、指導に生かしている。

【指導助言】

一人一台の端末の活用が進んでいるところ、進んでいないところがあり、それぞれの悩みがあると思う。一人一台の端末の活用に関しては、先生方の意識が課題として挙げられる。「どのように活用していけばよいのか」と追究しようとする意識が、業務改善にも繋がる。「端末の活用ができていないか、できていないか、その理由は何か」と考えたことをモチーフにすると、そこに「業務改善がどのようにできているのか、できていない理由は何なのか、それを改善するためにはどのようにすればよいのか」と考えるヒントが隠されている。

【協議の柱2】成長していく職員組織にするため、副校長・教頭はどのようにリーダーシップを取ればよいか。

【グループ協議 報告】

- ・職員一人一人に合った目標（具体的な目標）をもたせることが大切である。ICT活用に関しては、人事評価に評価項目を入れる、学級経営案にICTの活用目標を入れるなどすることで、目的意識をもたせるとよい。
- ・今ある分掌組織を積極的に活用する。ICTについては、情報活用主任、ICT中核教員等を意図的に配置する。また、課題に応じたプロジェクトチームを立ち上げ、ミドルの先生と若い先生を意図的に配置している。
- ・若手職員の得意な面を生かすマネジメントを行うとともに、OJTを生かした校内研修の時間をつくり出す。
- ・組織としての成長はミドル層の成長が欠かせない。ミドルリーダーの育成をOJT、OffJTの両面で行う。
- ・職員一人一人の特性を理解し、頑張っている姿を紹介することで、学び合える職員集団をつくっていく。
- ・対話を積極的に行うことで職員一人一人のニーズを把握し、一緒に考えるという構えで個の支援を行う。
- ・育成指標をもとに、キャリアに応じたアドバイスをを行い、個の5年後の姿を具体化していく。

【指導助言】

ICTの活用はあくまで手段である。ただ、避けては通れない手段であることを認識しないといけない。職員室の中がどのようになるかは、副校長・教頭の手腕によるものが大きい。その学校が先生たちにとって魅力的な職場であるかどうか、子供たちにとって魅力的な学校であるかどうかダイレクトに繋がってくる。また、先生たち一人一人が自ら成長しているという環境が、子供たち一人一人が自ら成長していく環境に繋がっていく。この大会で研修したことを、自ら持ち帰り、自らの実践に生かして初めて意味をもつ。私たちは主体的に学ぶ子供たちを育成しようとしている。私たちも主体的に学ぶ職員室でありたい。